

研究計画書

ゼミ名	石田ゼミ	チーム名	シン・直立する賞与袋
タイトル	銀行危機が先か、市場危機が先か		
テーマ群	(b)財政・金融		
メンバー	小谷将稀、原佑樹、細見昌弘		
研究計画内容	<p><b>【研究背景】</b>                  米国における経済的混乱の問題は以前から取り沙汰されており、我々の生活にも少なからず影響を及ぼしています。リーマンショックを経験し、様々な予防策を実施してきたはずの米国がなぜ再び市場危機、銀行危機に直面しているのかに我々は疑問を持ちました。銀行は預金を受け入れて貸し出しを行うことによって必要な個所に資金を供給する役割を果たしています。銀行危機が発生すると、銀行の信用供給能力が低下し、それが企業や個人への融資を制約してしまいます。これにより、投資や消費が抑制されることで経済全体に影響を与えるでしょうし、逆に株式市場が冷え込めば銀行業界も優良な貸出先を見いだせず業績を悪化させることになるという経路も考えられます。</p> <p><b>【研究内容】</b>                  現代の経済においてたびたび発生する金融危機には市場危機（金融資産価格の急速かつ大幅な下落）と銀行危機（金融機能不全）があります。両者は、発生や実体経済への波及経路が異なり、政府・中央銀行の対応策も異なりますが、金融危機から市場危機（実体経済活動停滞⇒資産価格下落）、また逆に、市場危機（銀行資産価値の棄損・自己資本比率低下）⇒銀行危機というように、負の連鎖を持つと考えられます。本研究は、まず、両タイプの危機の発生をデータからリアルタイムで検証する方法を検証し、その上で、両者の先行・遅行関係について調べました。Vila (2000)を参考にしつつ、この研究では株価の動きを直接追って危機を検出しようとしていましたが、私たちは日経平均株価を基準として銀行インデックスの株価を回帰し、得られた値と実際の銀行インデックスの株価との乖離（残差）を求め、累積したグラフを用いて危機を検出することを考えています。前者の方法では市場全体の動きに合わせてノイズが発生しますが、私たちの手法を用いることでそのノイズを軽減することができます。また、その他の指標として他業種セクターのインデックス、長短金利の水準と変動、鉱工業生産指数、雇用に関する指標等の様々なマクロデータを調べます。これらにより、更に高い精度の銀行危機の特定に繋がると考えています。これらの手法を用いて特定した二つのタイプの危機に対してリード・ラグ分析を適用することにより相互波及の経済メカニズムの解明の一助となることを目的として私たちの研究を進めていきます。どちらかが先行するのか、また、経済がどういう状況のときに一方がもう一方に先行するのかを知ることは、政府・中央銀行が迅速かつ適切な対応により経済への影響を最小限に抑える上で有益であると考えます。</p> <p><b>【期待される効果】</b>                  私たちの研究の効果は、日本において、銀行危機（銀行の機能不全による資金循環能力の悪化）から市場危機（株価・地価等、資産価格の急激かつ大幅な低下）に繋がるのか、それとも市場危機から銀行危機に繋がるのかを実証的に分析することで、今後、市場危機、あるいは銀行危機が日本で発生した際に適切な対処を取るための判断基準を提言します。どちらが先に生じるのかは、一方が起こった際に対策を講じるうえでとても重要な情報となります。一定の関係を見いだせれば双方のショックに対する事前の準備のための重要な指標が出来ることになり、政策的には一方が生じた際の対応における理論・実証的な根拠となります。</p> <p><b>【参考文献】</b>                  Vila, Anne (2000) "Asset Price Crises and Banking Crises: Some Empirical Evidence" Bank for International Settlements, Discussion Paper.</p>		